

# 九州民放クラブだより

## ボウリングに挑む九十歳

矢野 建三（OBS）

民放クラブ大分の活動のひとつにボウリング同好会がある。参加者は、高齢化の影響で、年々減少傾向にあるが、年4回大会を開いている。



藤内雄彦さん

藤内さんが、ボウリングを始めたのは、60歳の定年を迎えたのは、頃だった。そうだが、これまで大

きな病気をしたこともなく元気そのもの。藤内さんの健康の秘訣はどこにあるのだろうか。

現在、市内中心部のマンションに一人で暮らしている藤内さんは、規則正しい生活を中心としているという。趣味のボウリングは、シニアの大会に週2回必ず参加し腕を磨いている。また、地区のグラウンドゴルフにも必ず週2回参加し、体をほぐしているという。

昨年、免許証を自主返納した藤内さんは、不便だといいながらも、出来るだけ生活中歩くことを取り入れているという。また、「思い悩まず、前向きに明るい気持ちを持つことが大事だ」と話してくれた。

背筋が伸びて歩く姿も若々しい藤内さんの言葉には、高齢化社会を生きるうえで大切なヒントがあるようだ。

## 糖尿病協会月刊誌に 音訳活動が特別企画で掲載される

林 欣子（TNC）  
1990年発足した、九州民

放クラブ福岡の社会活動、朗読奉仕グループは、九州・沖縄各県の県立盲学校や点字図書館などに、録音図書を寄贈してきました。

1995年から「福岡県糖尿病視覚障がい者の会」の依頼を受け、日本糖尿病協会発行、月刊「さかえ」の音訳に取り組むことになりました。以来

24年、テープからデジタルに変わり、亡くなる方もいて、リスナーの数がだんだん少なくなつてきました。

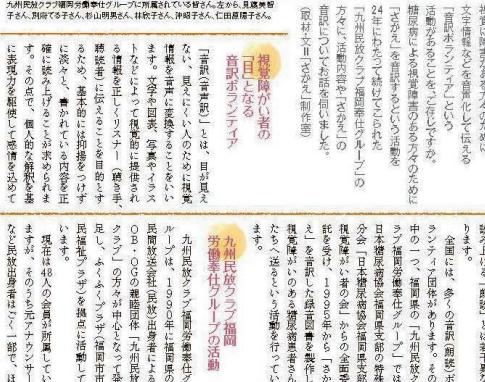
「さかえ」の音声版を知らない方が多いことを知つて、「さかえ」執筆の福岡県内の糖尿病専門医に「先生の記事を視覚障がいの方に音訳して貰いたい」と話してきました。

ナードの先生方から、暖かい激励のお手紙をいただきましたが、たまたま福岡大学病院のN先生が「さかえ」の編集委員会で私達の活動を話され、月刊誌の記事に取り上げられることになりました。

世界で糖尿病患者は2040年には6億4千万人以上になると予想されるとのこと、私達

の活動が糖尿病の情報普及の一助に、そして糖尿病減少に少しでもお役に立てれば幸いです。

## 「さかえ」を声で届けます —音訳ボランティア活動を通して—



月刊誌「さかえ」2019年12月号

患者の皆様に聞いてもらつて下さい」とCDを送つて、リストナーや増やす作戦？を取りました。

数人の先生方から、暖かい激励のお手紙をいただきましたが、たまたま福岡大学病院のN先生が「さかえ」の編集委員会で私達の活動を話され、月刊誌の記事に取り上げられることになりました。

世界で糖尿病患者は2040年には6億4千万人以上になると予想されるのこと、私達の活動が糖尿病の情報普及の一助に、そして糖尿病減少に少しでもお役に立てれば幸いです。

世界で糖尿病患者は2040年には6億4千万人以上になると予想されるのこと、私達